

「知事のふれあい訪問」は、地域の実情を把握して県政に的確に反映することを目的に、大野もとひろ自身が県内各地の様々な現場を訪問するものです。今年5月11日に東部地域、5月25日に川越比企地域を訪問しました。

東部地域を訪問

●八潮市 ●三郷市 ●吉川市



株式会社イワコー **八潮市**
「どこにもないモノ」の開発を基本に、オリジナルの立体おもしろ消しゴムを製造する文具メーカーです。



株式会社メディセオ埼玉ALC **三郷市**
最新の設備により効率化を進め、有事の際の業務継続にも万全の備え。ワクチンの安定供給にも大きく貢献する医薬品の最先端物流施設です。



農事組合法人吉川受託協会 **吉川市**
開発発展が進む吉川市で美しい田園風景を守り、なまずの養殖と農業の担い手育成に取り組む農事組合法人です。

川越比企地域を訪問

●川越市 ●毛呂山町 ●越生町 ●鶴ヶ島市



オクムサ・マルシェ **越生町**
地域の魅力を発信するカフェを運営。越生町特産のうめやゆずのほか、奥武蔵の自然食材を使ったメニューが堪能できます。



株式会社苺の里 **毛呂山町**
毛呂山町初となる苺狩りができる観光農園を開園。6次産業化にも力を入れ、直営店の「苺の里ストロベリーガーデン」では多くのスイーツを製造・販売しています。



株式会社マツザキ **川越市**
県内初のジン「Japanese Craft Gin 棘玉(とげだま)」を製造している自社製蒸留施設。多くの世界的なコンクールにて、金賞を受賞するなど非常に評価されています。



株式会社関水金属埼玉工場 **鶴ヶ島市**
鉄道模型車両、運転システムやその関連商品の製造・販売を手掛け、国内最大のシェアを持つ鉄道模型のパイオニア。ブランド名の「KATO(カトー)」は北米を中心に海外でも高い認知度を誇ります。

開催御礼 **大野もとひろと日本一暮らしやすい埼玉をつくる会**

4月6日(水)に開催されました「大野もとひろと日本一暮らしやすい埼玉をつくる会」におきましては、多くの方のご参加をいただきありがとうございました。改めて御礼申し上げます。皆様からいただきました励ましの声をバネに、埼玉のさらなる発展に邁進してまいります。



■大野もとひろ プロフィール

昭和38年埼玉県川口市生まれ。慶應義塾大学卒。国際大学修士課程修了、中東調査会参与。中東諸国の大使館勤務などを経て、東京大学、青山学院大学大学院、日本大学などで教鞭を執る。イラク戦争時には衆議院で参考人として「イラクの大量破壊兵器は外国に脅威を及ぼさない」と発言し一石を投じる。企業経営のかたわら世界最大の社会奉仕団体ライオンズクラブで史上最年少のガバナー(埼玉県の代表)としてボランティア活動に従事。平成22年参議院議員埼玉県選挙区で初当選後は「動的防衛力構想」を構築した同23年防衛大綱起案に関与し、党ネクスト防衛大臣として日本の領土領海を守る「領海警備法案」を起草。同24年防衛大臣政務官兼内閣府大臣政務官。2期目在任中の令和元年8月、埼玉県知事選挙に挑戦。見事勝利し現在1期目。就任後、豚熱や台風19号、新型コロナウイルス感染症が相次ぐ中、随所で危機管理専門家としての本領を発揮。この間に知事選の公約106項目(全129項目)にも着手。学生時代はアメフト、柔道(初段)、水泳に没頭。落語や音楽が好きな3人の子どもの父親。祖父は元川口市長の大野元美氏。

大野もとひろ後援会事務所

〒332-0017 埼玉県川口市栄町2-1-11 ブランズ川口栄町パークフロント103
TEL 048-271-5252 FAX 048-271-5200
E-mail: saitama@onomotohiro.jp

大野もとひろ公式サイト

大野もとひろ 検索



編集・発行/大野もとひろ後援会

FRONT LINE フロントライン

第6号

令和4年8月発行

この4月から、県政運営の基礎となる新たな総合計画として、私の思いを詰め込んだ「埼玉県5か年計画」がスタートしました。埼玉県知事大野もとひろは、先人が築き上げてきた埼玉県を更に成長させ、「日本一暮らしやすい埼玉」を実現するため、「ワンチーム埼玉」となり全力で取り組んでまいります。

先手先手の対応 県民の安心安全を確保

コロナ、物価高騰、降ひょう対応など、危機管理でリーダーシップを発揮!

新型コロナウイルスやロシアによるウクライナ侵攻、原油価格・物価高騰など、想定外のことが次々と起こり、先行きが不透明で将来の予測が困難な時代。大野もとひろは、常に高い危機管理意識のもとで強いリーダーシップを発揮し、数々の困難を乗り越えてきました。

オミクロン株に迅速・的確に対応

コロナ対策は危機管理です。大野もとひろは、知見やエビデンスを基に、先手を打って戦略と戦術を定め、それを共有して対策を講じていくことを徹底してきました。

コロナ第1波では、新型コロナウイルスに関して、未知のウイルス故に知見がない中での対応を強いられました。

第1波以降は、県として都度、戦略と戦術を定め、これまで様々な施策を進めてきました。

直近の第6波のオミクロン対策においても、イギリスやアメリカの前例を踏まえ、感染力は強いが重症化は少ないという特性に着目し、自宅療養者が極端に増えることを見越して、体制強化を一早く行いました。

その結果、埼玉県の場合には、48時間を超えて入院できなかった方はゼロでした。

また、自宅療養で容態が悪化した場合の自宅療養者支援センターの受電率は100%であり、電話を受けられないということが1度もありませんでした。

原油価格・物価高騰にかかる緊急支援

原油価格・物価高騰対策として、6月補正予算の編成にいち早く取り組みました。学校給食費等の負担増加回避のための補助や夏休み中の子供の食事等の確保、乗合バス等やタクシー事業者への補助など実施するほか、省エネ・再エネ設備投資の促進補助を実施します。

降ひょう被害・現地入りで先手の対応

6月の降ひょうでは、真っ先に被害があった現地に赴き、直接被害状況を確認しました。

県では6月17日、農業災害対策特別措置条例に基づく特別災害の指定を行い、被害を受けた農業者が営農を継続できるよう、様々な支援を行うこととしています。



※こちらの会報記事は7月11日現在の内容です

埼玉県5か年計画を策定 ～日本一暮らしやすい埼玉へ～

《計画期間令和4～8年度》

全国の高齢者人口がピークとなるなど、大きな社会の変化や多くの課題が見込まれる2040年を見据え、3つの将来像の実現に向けて、12の針路と54の分野別施策を設定しました。

この5か年計画は、大野もとひろが知事に就任後、初めての総合計画として、今後進めるべき施策を体系的に位置付け、未来に向けた私の思いを詰め込んだ計画です。私の目指す埼玉県の将来像は、あらゆる人に居場所があり、活躍でき、安心して暮らせる社会である「日本一暮らしやすい埼玉」です。これは、SDGsの理念である「持続可能で誰一人取り残さない社会」の実現につながります。

同時に、官民間問わずさまざまな分野で変革を促すデジタル・トランスフォーメーションを実践していきます。この計画を基に、「ワンチーム埼玉」で先人が築き上げてきた埼玉県をさらに成長させ、未来に引き継いでまいります。

大切なことは、計画を策定することではなく、そこで定められた各施策を真摯に実現していくことです。県民の皆さまのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

3つの将来像の実現に向けて、12の針路と54の分野別施策を設定しました

3つの将来像	将来像1 安心・安全の追究 Resilience ～レジリエンス～	将来像2 誰もが輝く社会 Empowerment ～エンパワーメント～	将来像3 持続可能な成長 Sustainability ～サステナビリティ～
	針路	災害・危機に強い埼玉の構築	誰もが活躍し共に生きる社会の実現
施策	感染症対策の強化	女性の活躍推進と男女共同参画の推進	住み続けられるまちづくり
指標	感染症専門研修受講者数	女性(30～39歳、40～49歳)の就業率	埼玉版スーパー・シティプロジェクト※ に取り組む市町村数
	現状値 0人(令和2年度末) 目標値 542人(令和8年度末)	現状値(令和2年) 30～39歳 71.6% 40～49歳 76.3% 目標値(令和8年) 75.1% 79.2%	現状値 0市町村(令和2年度末) 目標値 46市町村(令和8年度末)

…など3針路と15施策

…など5針路と22施策

…など4針路と17施策

全施策を貫く横断的な視点として、2つの基本姿勢を反映しました

埼玉版SDGsの推進

SDGsは国連で採択された、2030年までに「誰一人取り残さない」持続可能でより良い世界を目指す国際目標です。

本県では「日本一暮らしやすい埼玉」の実現を目指し、全施策にSDGsの基本理念やゴールをリンクさせ、「ワンチーム埼玉」で推進していきます。



新たな社会に向けた変革～DXの推進～

DXとは、デジタル技術を浸透させることで、人々の生活をより良いものへと変革させることです。

社会全体のDXの実現を目指し、ポストコロナも見据えた新たな社会をより快適で豊かな、真に暮らしやすいものに変革します。

2022年のトピックス



埼玉パナソニック ワイルドナイツ優勝報告

熊谷市を本拠地とする埼玉パナソニックワイルドナイツが、同リーグで見事初代王者に輝きました。2022年6月1日(水)、大きなリーグワントロフィーとともに優勝報告に来ていただきました。県庁職員が廊下に花道をつくり横断幕を掲げてお迎えし、皆でお祝いをさせていただきました。



狭山茶の生産状況を視察

八十八夜の2022年5月2日(月)、本格的な茶摘みの季節を迎えた狭山茶の生産状況を視察しました。「色は静岡、香りは宇治よ、味は狭山とどめさす」。「狭山茶づくり唄」にも歌われる、狭山茶の特徴である深い味わいを、多くの皆様に楽しんでいただきたいと思います。



駐日オマーン国特命全権大使の表敬訪問

2022年6月13日(月)、駐日オマーン国特命全権大使のムハンマド・サイード・ハリーフ・アール・ブー・サイディ氏の表敬訪問を受けました。日本との外交樹立50周年を迎えたオマーンは古い伝統と新しい可能性を併せ持つ素晴らしい国で、私が好きな国の一つです。今後もよい関係を続けていきたいと思っています。



「ふれあいグリーンキャンペーン」記念植樹

埼玉トヨペット(株)が、県内自治体に苗木を寄贈する「ふれあいグリーンキャンペーン」。今年も、県に苗木500本、「彩の国みどりの基金」に100万円の御寄附をいただきました。2022年6月7日(火)に大野もとひろから感謝状を贈呈し、知事公館で苗木の記念植樹を行いました。昭和51年から毎年続く息の長いお取組、ありがとうございます。



森を育てる家づくりをテーマに「どこでも知事室」

2022年6月8日(水)、森林パートナーズ(株)の会員の皆さんと秩父地域で意見交換し、金子製材(株)の現場も視察しました。持続可能な林業のために、山元への利益還元を実現する数々のお取組、大変参考になりました。